

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑Aユニット		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381-2		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観であり、両フロアからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができ、心を癒してくれます。施設の近くには河川敷公園があり、景色も良く、散歩にとっても最適となっています。地域の方々も散歩に多く訪れられており、触れ合いの場にもなっています。施設中庭での菜園にて花や野菜を育て、椅子、テーブルが設置してある為、休憩にしようしたり、利用者様同士が交流する場となっております。利用者様が主体的に暮らし、一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。利用者様にとって「第二の家」と思ってもらえるような温かい施設を目指しております。認知症に捉われず、いつまでも「自分」というものを持ち続けて頂けるよう、今出来ている事にしっかりと目を向けるようにし、自信、活気に繋げられるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第二の家」と思ってもらえるようホーム全体で取り組んでいる。情報収集しやすい1対1で関わる姿勢を大切にしている。個別に楽しめる誕生日企画や、外出などに力を入れている。中庭で家族にも参加してもらうバーベキューを企画し、家族同士の交流の場としている。中庭には畑もあり、利用者と一緒に水やり、収穫を行い採りたての食材が食卓にあがる。同法人内研修を利用して職員のスキルアップにも積極的に取り組んでいる。運営推進会議に地域の人が参加し、地域の現状の把握ができるとともに、様々な意見交換が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、施設独自の理念を職員同士で話し合い変更し「一緒に描こう」を掲げる事となり、常に職員一人ひとりがどのような施設にしたいのか、利用者様は何を求めているのかを考えながらの支援を心掛けている。	「思いやり」という理念から、「どういう施設に入りたいか」とのテーマを導き出し、職員間で改めて検討した。この事により、職員の個々の意向を大切にするという思いが強くなった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している特別養護老人ホームと合同で毎年7月に夏祭りを開催し、地域の方も多数参加されている。お相撲さんの慰問などもあり、地域の保育園児との交流会も開催している。	今年は、談笑ボランティアの受け入れを始め、踊りのボランティアも継続している。地域の保育園児との交流や、相撲部屋の慰問もあり地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受け入れる体制を整えている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし知識向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者からの意見などをいただき、施設サービスの向上に努めている。また地域の方との関わりが積極的に行えるよう地域交流に関して意見交換を行っている。	自治会長、民生委員の参加により、防災について地域に密着した情報交換が行われている。家族からの要望を聞き取ったり、利用者の近況報告、ホームの活動報告を行い幅広い意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業者のサービス内容、取り組みを伝え、助言を頂いている。	2か月に1回、運営推進会議の議事録を市の窓口を持参している。最近では、市の職員がホームの見学に来る機会が増え、情報交換を行い日頃から相談しやすい関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり職員の都合で抑制しないよう職員同士確認し合い支援を行っている。安全面の問題が発生してしまった際は、職員同士でカンファレンスを開催し、支援方法を検討するよう心掛けている。	どのような行為が拘束にあたるのか、職員間で話し合いの機会を日頃より設けている。利用者にとって今何が一番優先順位なのかを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないように意識し合うようにし、職員同士助け合いながらストレスを溜めないよう心掛けている。困った時はアドバイスし合いながら皆がレベルアップ出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上でご家族様、ご利用者様の希望、要望を聞き入れ、納得を頂いている。また退居後の対応なども説明し安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者が明記されている。また面会時などに要望や希望を伺い、意見を頂くようにしている。半年に一度サービスに関する意向調査を行い、助言も頂いている。	意見箱を玄関に設置しているが、なかなか意見を集めるまでには至っていない。意見がでやすいように書式を見直す検討を始めている。家族とは来訪時や電話で話して、要望や意見を聞いて改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、責任者会議を開催し、職員からの意見や要望を聞き入れながらコミュニケーションを図るようにしている。統括施設長とも気軽に面談が行えるような関係性が出来ている。	管理者が日頃から、テーマを職員に投げかけ幅広い意見の収集に努めている。職員が、管理者、ユニットの責任者に気軽に相談できる関係性が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問の解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修後は、復命書を提出して頂き、全職員にも研修内容の報告、勉強会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担を感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての支援方法を伝えるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、出来ることはすぐに実行するよう努めている。すぐに出来ない事に関しては、方策を考えながら今後の対応策として案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が辿ってきた生活リズムや環境を大切にしながら得意な事、やる気を持てる事を把握し、参加意欲を持って頂けるようにしている。また職員は「教えて頂く。」という気持ちを頭に入れ、接するようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での出来事、体調面に関して面会時や毎月送っている手紙の中で報告したり、支援の方法について相談するようになっている。ご家族様と常に連携が図れるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築いてきた関係や繋がりを続けていけるよう希望に応じてご家族様にも協力して頂き、買い物や外食など出掛ける機会を設けている。行事では出来る限り、外へ出掛け、人と触れ合う努力をしている。	河川敷への散歩を通して、地域の人との顔馴染みの関係作りに努め、友人、家族、近所の人々が面会に来やすい雰囲気作りを行っている。要望があれば、一緒に食事が出来るような取り組みも考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮し、食事の席を決めたり、外出時には、気の合う方同士で出掛けられるよう支援している。利用者様同士が関わり合ったり、共に支え合える環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談を受けた際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中からその時々感じている希望や思いを掴み、定期的なモニタリングの際、ケアの方向を話し合うようにしている。また日頃の関わりの中でどのような暮らしを望んでいるのか、さり気なく伺っている。	日常の会話での些細な言葉や、入浴や散歩等のマンツーマン対応の場も有効に活用し、思いや希望の把握に努め、家族からの情報や選択できる問いかけで意思を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との交流の中で意向を聞き出したり、ご家族様の面会時に情報収集をするなどして本人様にとって暮らしやすい環境を実現出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の暮らしをしっかりと観察し、一人ひとりのその時に持ち得る力、心身状態を把握し、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直しの際には、本人様、ご家族様がどのような生活を望んでいるのか伺うようにし、本人様本位に検討した上でアセスメントを通して出来る限り希望に沿えるよう計画を作成している。	職員は担当制で、計画を3か月で評価、6か月で見直している。カンファレンスのメンバーに担当を持たないパート職員を入れ、広い観点からの意見も取り入れている。家族の要望にも耳を傾けて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態把握など日々の介護記録に記載し、職員間で情報共有、今後の対策について毎日の申し送りにて意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望、その時々状況に応じて、ふさわしい支援となるよう広い視野で物事を考えるようにしている。施設で行うサービスに捉われず、一人ひとりの生活スタイルに目を向けるようにもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の民生委員、介護相談員、包括支援センターの職員と意見交換を行い、地域のイベントへ参加させて頂く機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じてかかりつけ医の受診を支援している。希望するかかりつけ医がない利用者様については、施設協力医の往診にて適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に専門医療機関の確認して、職員が通院に同行しており、状態や結果を家族に報告している。月2回主治医の往診がある。また、歯科も現在訪問診療を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や介護職員と協力し合いながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。月2回の主治医往診時にも状態報告を行い、助言を頂きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中については、頻繁に介護職員、看護職員が面会に窺い、回復状況の把握をし、早期退院に努めている。同時に環境の変化による気持ちのケアも行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始の際、終末期ケアについての意向を伺い、ご家族様、ご利用者様の思いに沿った対応を行うようにしている。また終末期、重度化になった際は、再度、主治医、ご家族様と相談しながら意向確認によって対応を行うよう努めている。	入居時、家族に重度化や終末期対応については説明して同意を得ている。今年5月、家族、主治医、職員の協力の下、初の看取りを行った。状態変化に伴い、こまめに意向を確認して段階的な合意を得ながら、チームで取り組むことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員にて応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施したり意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し職員が目に来る場所へ設置し、的確な対応が行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員、防火管理者立会いの下、年2回避難訓練を実施し、その都度、助言を頂いている。また避難訓練終了時には、すぐに反省点、改善点について職員間で話し合いを行うよう努めている。	年2回、想定を替え避難訓練を実施している。利用者の誘導方法や火災通報装置使用方法の徹底等問題点が発見でき、次回内容や実施回数のヒントを得ることが出来た。地域住民の訓練への参加もあった。ホーム1階に水や備品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性を尊重し、感じ方、考え方を日頃の関わりの中から感じ取るよう努めている。声かけの際は、利用者様自身に判断して頂けるよう声かけが押し付けにならないよう注意している。	言葉使いに気をつけて、見守りながら意思を尊重、自己決断できる対応を心がけている。また、直接見本を示したり、「どうしたら良い？」と問いかけてプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の力量に合わせて、どのように伝えることで理解を得られるのかを考えた声かけを重視し、自分自身で選ぶ、決断することの喜びを感じて頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床から就寝までの時間を一人ひとりのペースに沿って行って頂くようにしている。日頃の関わりの中でも本人様の希望、要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされている方や衣装にこだわりや好みがある方へは好きな服を自ら選んで頂いたり、決定が困難な方へは好みをご家族様などから伺いながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、汁物の調理など家事が得意な方や参加希望の方にその方の力に合わせて協力して頂き、共に助け合うことでやりがいや充実感、達成感に繋がるよう支援している。	ご飯と汁もの以外は特養の配食を利用している。メニューは選択でき、入居前の情報で好き嫌い、状態に応じたきざみやミキサー食にも対応している。ホットケーキや五平餅、たこ焼き等のおやつはユニットで手作りしており、訪問時もエプロン姿でキャベツ切りをする姿を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員が情報交換を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察し、状態に応じて管理栄養士と相談しながら食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの力量に合わせた支援を行っている。職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう勉強会を開催したり、常日頃から伝えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムの把握を行うとともに排泄チェック表に水分摂取量も記載し、水分摂取との関連性も考えながら対応している。尿意、便意の困難な方には行動を観察しながら排泄案内を行っている。	一人ひとりの様子や習慣をみながら見守り、声掛け、誘導にて支援し、夜間は個々に合わせポータブルトイレも併用しながら、本人が不快感を持たず、清潔を保てるよう対応している。水分量も記録して、薬に頼らない便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し、便秘傾向が見られる方には、乳製品などの提供にて便秘防止に努めている。日々の運動にも注意しながらラジオ体操、近隣への散歩などにて運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は利用者様の希望に合わせて行っており、無理に入浴を勧めたりはしないよう努めている。拒否が強い方も見え、同姓介助での対応、気の合う利用者様と一緒に入浴の機会を作り、羞恥心にも配慮している。	希望に合わせて午前、午後の時間帯で入浴でき、同姓介助や入浴剤で楽しめるよう工夫している。拒否される人には職員が細目に声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの様子を見て必要と思われる時や希望のある時は休息して頂くようにしている。安心して眠れるよう服装や室温調整など考えたり、温かい飲み物を提供するなど安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書、注意事項をケースファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るようにしている。服薬時は、飲み終えるまで必ず見守りを行い、誤薬の危険性に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを把握し、希望に沿って個別支援を行っている。また残された能力、技量を活かして頂けるよう家事への参加を働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その時々希望に応じて散歩や買い物、外食など、ご家族様の方とも協力して支援している。希望が言えない方でもどのような事に反応を示されるか把握し、月々の行事で楽しみを感じて頂けるように支援している。	日常的な散歩や買い物で気分転換や行事への参加に繋げている。動物園、昔を懐かしむ工場見学や初詣、花見、鳳来寺方面の紅葉狩り等季節を楽しむ外出もしている。外食で回転すしを初体験した人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の意向に合わせて事業所管理の方もいる。本人様の意向も大切にし、ご家族様と相談の下、自己管理されている方もいる。買い物などの支払いについても一人ひとりの力量に合わせて対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて親しい方と電話で話したり、ご家族様へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと大切な方との関係が途切れてしまわないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは自然の光を取り入れ、不快な臭いや室温などが無いよう快適に過ごせる環境を整えている。どこの場所においても利用者様が雄心の空間となるよう職員の対応も配慮している。また玄関を中心に四季を感じて頂けるよう飾り付けをしている	リビングは自然光や花、季節の飾りつけがあり、利用者一人ひとりがゆったりと落ち着いて過ごせる空間が確保されている。玄関には行事や職員の写真がさりげなく飾られ、畳のスペースで横になることも出来る。中庭の更なる利用法を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファが設置されており、宣の空間があるなど思い思いの場所で過ごして頂けるようにしている。孤立してしまわれる利用者様には、その方にとっての落ち着きが持てる場所を見つけられるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、それぞれ自宅で使用されていた家具や雑貨など思い出の品を持ち込んで頂き、個性のある部屋作りをしている。その時々々の状況や希望に応じて空間を改善し、常に居心地良く過ごせるようにしている。	居室は一人ひとり個性がある。タンス、写真、事業所で作った作品など飾ってあり、居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で不具合が生じると感じた際は、職員同士で話し合いながら環境改善に取り組んでいる。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392000044
事業所名	グループホーム喜寿苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	バーベキュー、焼き芋など、地域の人にも参加してもらえるようなイベントを企画して、交流を深めるための取り組みを行っている。事業所新聞を回覧板にはさみ、行事参加の案内を行っている。毎年恒例の夏祭りには地域の人の参加もあり、利用者との交流の機会となっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議により、地域の現状の情報が得られる。災害時の地域との連携方法など様々な意見交換の場となっている。利用者の近況報告、行事の報告を通して様々な意見をもらいサービス向上に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市の職員の見学時や、利用者の認定の更新時に市の窓口を訪問した際、施設の現状を報告し、助言をもらっている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	2か月に1回、ホーム新聞を家族に送っている。家族会が定期的に行われている。家族からの要望を聞くため意見箱を設置しているが、今後より意見がたくさん聞けるように見直しを行っていく予定である。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。